

じもとホールディングス連結業績

(単位:百万円、%)

	25年9月期	26年9月期	前年同期比	増減率
経常収益	21,130	21,242	112	0.5
経常利益	3,197	3,441	243	7.6
中間純利益	3,153	3,450	296	9.4

きらやか銀行・仙台銀行(単体)の2行合算

(単位:百万円、%)

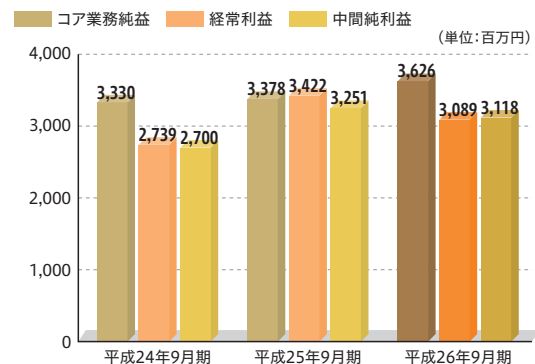
	2行合算			
	25年9月期	26年9月期	前年同期比	増減率
経常収益	21,073	20,772	△300	△1.4
業務粗利益	16,366	16,061	△304	△1.8
経費 (除く臨時処理分)	13,077	12,751	△326	△2.4
業務純益	3,494	3,521	26	0.7
コア業務純益	3,378	3,626	247	7.3
経常利益	3,422	3,089	△333	△9.7
中間純利益	3,251	3,118	△133	△4.0
貸出金	1,477,267	1,555,787	78,519	5.3
預金等 (譲渡性預金を含む)	2,307,231	2,448,932	141,701	6.1
有価証券	716,987	790,054	73,067	10.1

平成26年9月期の連結業績は、経常収益が212億42百万円、経常利益が34億41百万円、中間純利益は34億50百万円となりました。

2行合算の経常収益は、前年同期比3億円減少の207億72百万円となりました。

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したものの、物件費の減少等により、前年同期比2億47百万円増加の36億26百万円となりました。

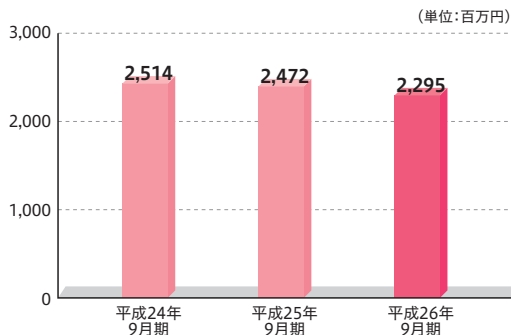
経常利益は、前年同期比3億33百万円減少の30億89百万円、中間純利益は前年同期比1億33百万円減少の31億18百万円となりました。



業績ハイライト(単体)

コア業務純益の状況

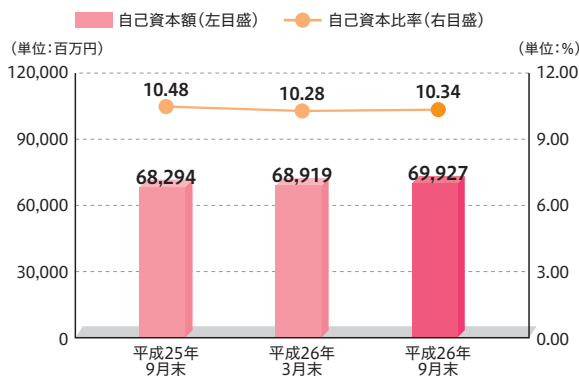
銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、経費削減に努めたことで物件費は減少したものの、資金利益の減少や税金の増加などにより、前年同期比1億76百万円減少の22億95百万円(増減率△7.1%)となりました。



自己資本比率の状況

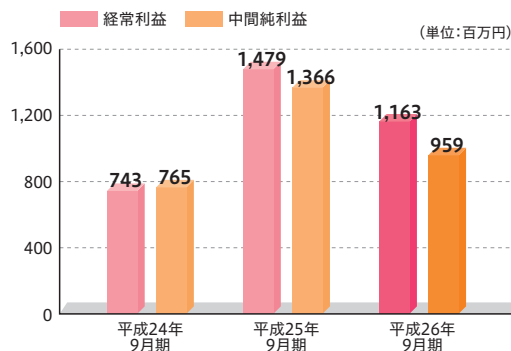
単体自己資本比率は、10.34%となりました。

※平成26年3月末より、改正後の自己資本比率規制(パーゼルIII)が国内基準行に適用されたことにより、従来の自己資本比率との算出方法が異なっております。



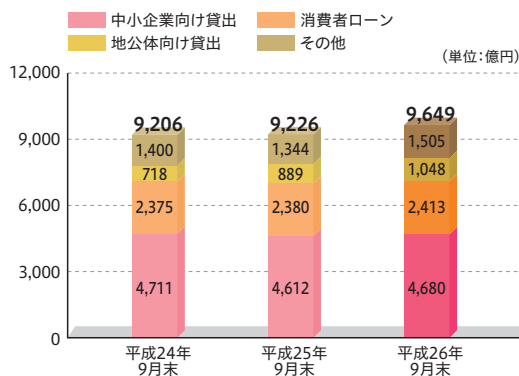
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は前年同期比3億15百万円減少の11億63百万円、中間純利益は前年同期比4億7百万円減少の9億59百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、中小企業向け貸出、住宅ローン貸出を中心とした消費者ローンや地方公共団体向け貸出が増加したことなどから、平成25年9月末比422億24百万円増加の9,649億13百万円となりました。

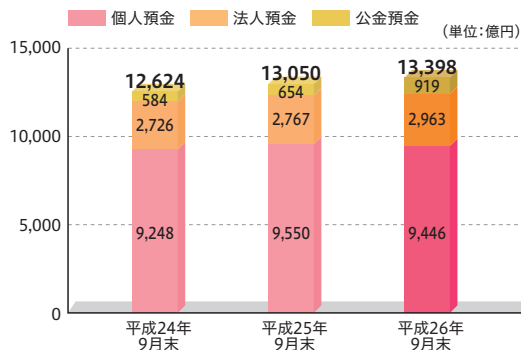


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

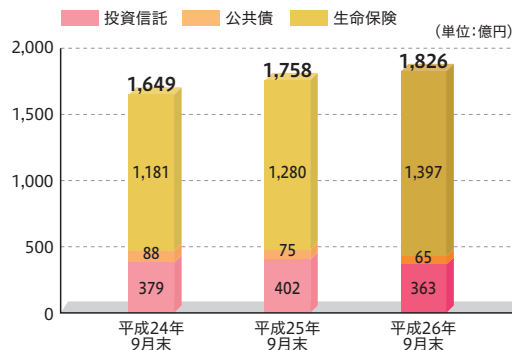
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、個人預金が減少したものの、法人預金及び公金預金が増加したことから、平成25年9月末比347億95百万円増加の1兆3,398億3百万円となりました。



預かり資産の状況

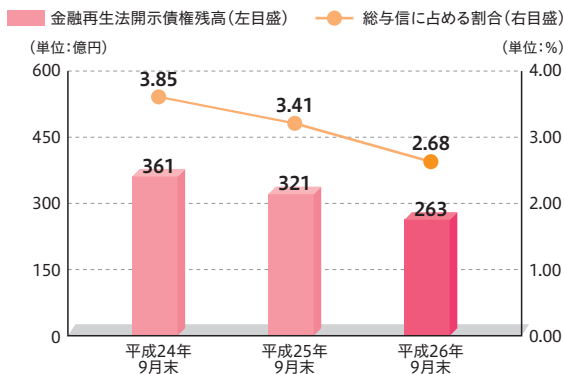
預かり資産残高は、安定志向にあるお客さまニーズの取込みなどにより生命保険残高が増加したことなどから、平成25年9月末比67億円86百万円増加の1,826億74百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成25年9月末比58億5百万円減少の263億72百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成25年9月末比0.73ポイント低下の2.68%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



当行は、平成23年2月、取引先企業再生支援のためのコンサルティング機能の発揮及び強化を目指し、完全子会社となるきらやかターンアラウンド・パートナーズ株式会社を設立、平成24年5月、当行が所管する貸出債権125億59百万円を会社分割により承継いたしました。

平成26年9月末現在における同社との連結開示債権残高は、266億94百万円で、開示債権比率は2.71%となります。

なお、同社は、平成24年3月、日本政策投資銀行と資本及び業務提携に関する協定書を締結し、企業再生支援機能を強化するとともに人材の育成を図ることによって地域経済の活性化を目指しております。

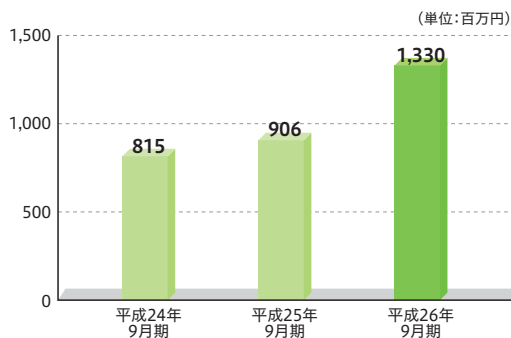
■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

業績ハイライト(単体)

コア業務純益の状況

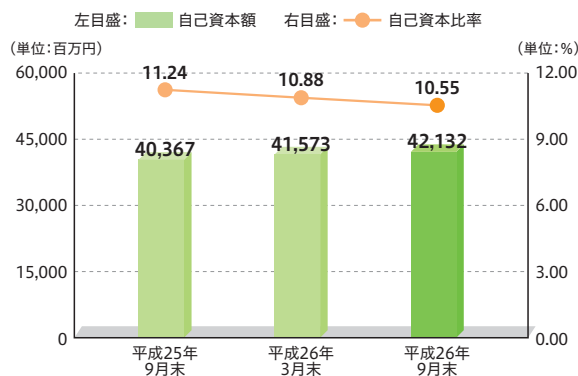
銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや、経費削減により物件費が減少したことなどから、前年同期比4億24百万円増加の13億30百万円(増減率46.8%)となりました。



自己資本比率の状況

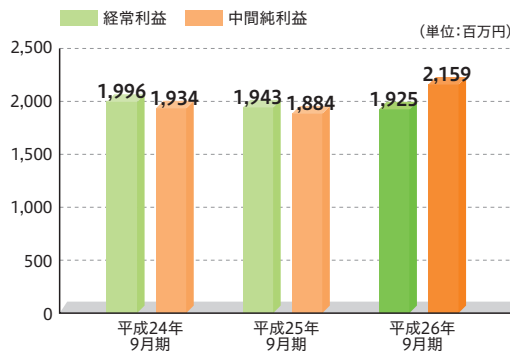
単体自己資本比率は、10.55%となりました。

※平成26年3月末より、改正後の自己資本比率規制(パーゼルIII)が国内基準行に適用されたことにより、従来の自己資本比率との算出方法が異なっております。



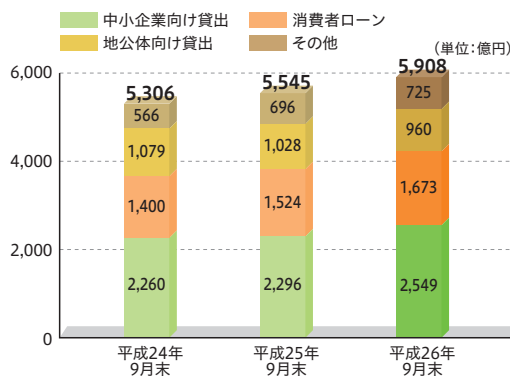
経常利益・中間純利益の状況

経常利益は、前年同期比17百万円減少の19億25百万円、中間純利益は、前年同期比2億74百万円増加の21億59百万円となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、震災復旧・復興に係る様々な資金需要への対応により、中小企業向け貸出や住宅ローン貸出が増加したことなどから、平成25年9月末比362億94百万円増加の5,908億73百万円となりました。

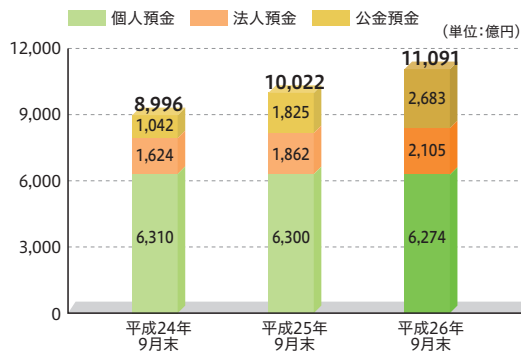


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

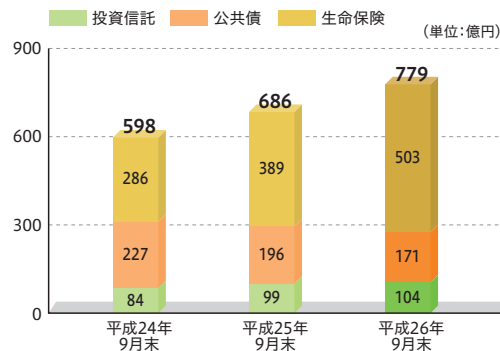
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、個人預金が減少したものの、法人預金や公金預金が増加したことなどから、平成25年9月末比1,069億5百万円増加の1兆1,091億28百万円となりました。



預かり資産の状況

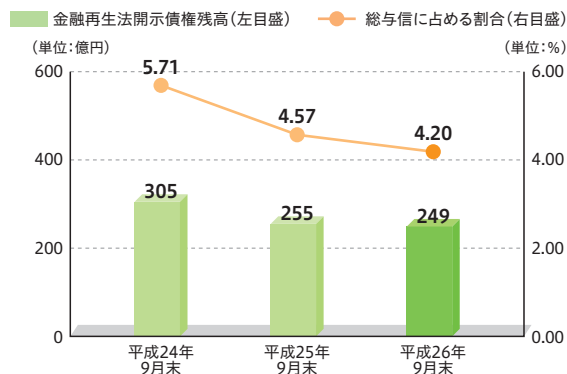
預かり資産残高は、営業店と資産運用サポートチームの販売強化により生命保険残高が増加したことなどから、平成25年9月末比93億41百万円増加の779億93百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、一部の被災企業の業況好転や約定返済などから、平成25年9月末比5億47百万円減少の249億74百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成25年9月末比0.37ポイント低下の4.20%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
 ■ 中間純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。